

第2回 「学習活動における基礎的知識と学習スキル」

学習活動とは

大学での授業の取り組み方を通じて、大学での学習活動について考えてみましょう。

基礎的知識

- 大学での学習(授業のスタイル、授業外学習、自主学習)
- ノートの活用(なぜノートをとるのか)
- 資料の活用(資料の種類や特徴の違い)
- 大学でのレポートの目的(正解があるとは限らない)
- 事実と意見の区別(事実を自分の主張に置き換えない)

学習スキル(スタディ・スキル)

- ノートの取り方(ノートテイキング)
- テキストの読み方(クリティカル・リーディング:批判的読解)
- 文献や資料の検索(図書館やデータベースの利用)
- 要約のしかた(パラグラフ、キーワードやキーセンテンス)
- 考えのまとめ方(事実と意見の区別、発想の展開)
- レポートの書き方(全体の構成、文献の引用)
- 発表のしかた(発表資料の作り方、口頭発表)

ノートテイキング(ノートの作り方)【基礎編】

ノートの書き方・使い方は、教えてもらったからといって、最初からうまくはいきません。上手にノートをマネしたり、試行錯誤を繰り返して、少しずつ「**自分にとって役に立つ**」ノートの作り方を身に付けてください。

実際に3つのスタイルの模擬授業を行ってみますから、それぞれのスタイルで何に注意すればいいか、どのような工夫をすればよいかを考えながら、ノートを取ってみてください。

- 教科書やプリントに沿った授業
- 板書を中心とする授業
- スライドを利用した授業

なぜノートを取る／作るのか？

ノートを取ったりするのは、何の目的のためにするのか、あらためて考えてみましょう。たとえば、次の3つの目的でノートを取る／作る時に、どのようなことに注意するとよいでしょうか？

- 授業での学習
- 予習・復習
- 自学自習、独学(他から教わらずに、自分一人で学ぶ)

【ポイント】ノートを活用するには？

- 授業内容を再現できるように: 板書をそのまま写すのではなくポイントを押さえる
- キーワードや要点を逃さない: 一言一句書き取っては聞き逃す
- 授業内容を立体的にとらえる: 記号や矢印、イラストなどをうまく使う
- 余白を多くつくって活用する: 追加情報を記入する場所をあらかじめ用意しておく

授業のタイプ別のノートの取り方

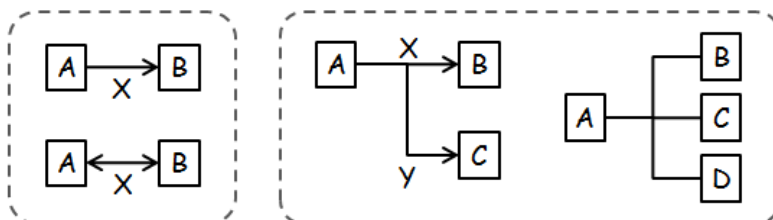
ある「[優れたノートの作り方の例](#)」を参考にして、役に立つノートの特徴や作り方のポイントを整理してみましょう。例えば、インプット型・アウトプット型の授業でのポイントは、次のようになります。

- インプット(知識説明)型授業
 - 復習を重視し、キーワードや要約を書く余白をあらかじめ作る(例:コーネル大学式ノート)
- アウトプット(問題演習)型授業
 - 予習を重視し、自分の考えや調べたことと模範解答を比べられるようにする

積極的にノートを活用するには、**定期的に読み返す**ことが重要です。ただし、試験前などに清書するのは二度手間です。しばらくして読み返してときに授業を思い出せる程度に**丁寧に書く**のがおススメです。

図解の活用

ノートを作るときには、文字で書くことだけが重要ではありません。物事の関係や考え方・情報の構造などを図で書いた**図解**があれば、視覚的に内容を理解・確認するのに役立ちます。



ノートをとるときに役立つ文房具

- 筆記用具
 - 蛍光ペン: キーワードを中心に、コピーしても写らない
 - ボールペン: 速記に便利、3色ボールペン(色で重要度や情報の意味を使い分ける)
 - (例) 赤...もっとも重要な箇所、青...まあ重要な箇所、緑...面白い・興味を抱いた箇所
- 付箋の活用
 - いろんな付箋: サイズ(大・中・小)、素材(紙、透明フィルム)
 - メモや情報の整理に: 大きめの付箋に書く、あとで内容ごとにグループに整理する
 - 読書ときの目印: 気に入ったフレーズに張る、疑問に思ったところに張る

参考文献

- 齋藤孝「三色ボールペン情報活用術」(角川oneテーマ21 B-43), 角川書店 (2003.06).
- 田村仁人「アタマが良くなる合格ノート術」, ディスカヴァー・トゥエンティワン (2007.04).
- 堀公俊, 加藤彰「ファシリテーション・グラフィック」, 日本経済新聞社 (2006.09).
- 太田あや「[東大合格生のノートはかならず美しい](#)」, 文藝春秋 (2008.09).
- 永田豊志「[頭がよくなる「図解思考」の技術](#)」, 中経出版 (2009.11).

次回(4月27日): 「文献検索、資料収集」

- 文献検索、資料収集(図書館ツアーのため、9:00に図書館の入口前に集合)
 - 近所の図書館について調べておく(図書館の名前、場所、雰囲気、特徴など)
- ノートテイキング(続き)
 - 工夫をしてみた実際の授業のノートを用意(どの授業でもよい、どんな工夫をしたかを紹介)